

磐井川に係る水質環境基準の 類型の見直しについて (案)

令和 4 年 1 月

岩手県環境生活部環境保全課

1 見直しの必要性

磐井川は、昭和 48 年に上流は河川 A、中流は河川 A、下流は河川 C として類型指定され、平成 17 年に上流は河川 A A として上位類型への見直しが行われた。

水質の代表的指標である BOD について、中流及び下流についても環境基準を満たしていることから、上位類型への見直しを行うこととする。

また、水生生物の保全に係る水質環境基準について、流域全体を範囲として類型指定していることから、現状の類型を維持することとするのが適当であるか調査を行った。

2 流域の状況

1 磐井川の概要

磐井川は、岩手県一関市を流れる北上川水系に属する一次支川であり、奥羽山脈の栗駒山に源を発する流域面積約 302 km²、延長 36.3 km の一級河川である。

上流域は、岩手、宮城、秋田、山形の四県にまたがる栗駒国定公園に指定され、温泉が湧出し、一関温泉郷として親しまれている。また、河岸段丘に河畔林が多く、名勝・天然記念物の厳美溪に代表される溪谷美となっている。

中流域の一関市街地では、磐井川緑地が河川敷公園として活用されている。

下流域では、北上川との合流点は一関遊水地が整備され、一関遊水地内の農用地は大区画に整備された高生産性水田農業地域として利用されている。

一関地区は、磐井川と北上川が合流する北上川下流域に非常に川幅の狭くなった区間（狭隘部）があることから、古くから水害常襲地帯として知られ、洪水のたびに大きな被害を受けてきた。特に、戦後間もない昭和 22 年カスリン台風及び昭和 23 年アイオン台風の洪水被害により、一関市街地は壊滅的な被害を受けたが、復興の取組により現在の市街地が形成されている。川幅の拡張、護岸工事などが順次進められ、現在は堤防内の磐井川緑地にジョギングコースやゲートボール場などが整備されている。また、春の桜まつり、夏の花火大会、秋の芋の子会、冬の白鳥と四季を通じて市民の憩いの場となっている。

磐井川流域では、多くの小中学生や民間の団体が、国や県が呼びかけている河川の水生生物調査に参加しているほか、河川環境の「観察・調査」や「観察・遊び・河川清掃」などの複合した活動が盛んに行われている。



図 2 - 1 磐井川の流域図

背景図：標準地図（国土地理院）

表 2 - 1 磐井川の現在の類型指定状況

水域の名称		範囲	水域類型	達成期間※	環境基準点	暫定目標
磐井川	上流	黒沢橋より上流の磐井川本流	河川AA	イ:直ちに達成	長者の滝橋	—
	中流	黒沢橋から磐井川と吸川との合流点までの磐井川本流	河川A	ロ:5年以内で可及的速やかに達成	上の橋	—
	下流	磐井川と吸川との合流点から磐井川と北上川との合流点までの磐井川本流	河川 C	ロ:5年以内で可及的速やかに達成	狐禅寺橋	—
		磐井川と北上川との合流点より上流の磐井川本流	河川生物A	イ:直ちに達成	長者の滝橋 上の橋 狐禅寺橋	—

【参考】

達成期間の区分

イ：直ちに達成

ロ：5年以内で可及的速やかに達成

ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成

ニ：段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める